

(47) おうとう

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
灰星病 4月下旬	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伝染源は、越冬菌核（前年度落下した罹病果）上の子実体から飛散する子のう胞子である。子実体の発育抑制のため、融雪後は園地内の乾燥に努める。 2. 次年度以降の伝染源低減のため、発病果を摘み取り園地外に搬出し、適正に処分する。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤耐性情報（詳細については261~277ページ参照） <ol style="list-style-type: none"> (1) チオファネートメチル剤耐性菌：高率で確認されている。 (2) ジカルボキシイミド系（プロシミドン剤、イプロジオン剤）剤耐性菌：一部地域で確認されている。 2. 樹冠散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 重点防除時期は開花直前、満開3日後（花腐れ防除）、落花直後及び着色始（収穫10日前）～収穫期（果実腐れ防除）である。 (2) 天気のよい暖かい無風日を選んで、ていねいに防除する。
5月上～中旬 6月上～下旬	
幼果菌核病	<p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伝染源は、越冬菌核（前年度落下した罹病果）上の子実体から飛散する子のう胞子である。子実体の発育抑制のため、融雪後は園地内の乾燥に努める。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 樹冠散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発生園地を対象に防除する。 (2) 葉腐れ防除は開花直前、幼果腐れ防除は開花直前、満開期散布で効果が高い。
5月上～中旬	
褐色せん孔病 (せん孔病) 収穫後	<p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 樹冠散布

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
ハマキムシ類	<p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 枝幹散布 2. 樹冠散布
4月下旬 5月上～下旬	

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
コスカシバ 休眠期	薬剤防除 1. 樹冠散布
カイガラムシ 類 4月下旬～発 芽前	薬剤防除 1. 枝幹散布
ショウジョウ バエ類 6月下旬～収 穫直前	薬剤防除 1. 樹冠散布
オウトウハマ ダラミバエ 5月下旬～6 月下旬	薬剤防除 1. 樹冠散布
ハダニ類 6月上旬～	薬剤防除 1. 樹冠散布 (1) 同一薬剤の連用を避ける。 (2) 発生初期のうちに防除する。

(ウ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（おうとう）

○発生モニタリングによる効率的防除

- ・ほ場観察による発生モニタリングで適期防除

○化学的防除の効率化

- ・休眠期の機械油乳剤散布によるリンゴハダニの越冬卵、カイガラムシ類の越冬雌成虫の削減
- ・交信攪乱剤利用によるコスカシバの発生密度低減

○物理的防除

- ・灰星病対策として、雨よけハウスの導入による裂果防止

○生物的防除

- ・灰星病対策として、バチルスズブチリス剤の利用

○耕種的防除

- ・被害果・被害葉の摘み取り除去
- ・融雪後の速やかな園地内の乾燥
- ・カイガラムシ発生ほ場では、休眠期にブラシ等で除去

※栽培に当たっての留意事項

- 樹冠内部にも十分日光が入る防除効率の良い樹形管理を行うこと。

- 適正樹勢、適正着果、受光環境の改善で、健全な樹体づくりを行うこと。
- 降雨、湿潤条件で多発する病害が多いため、天候に対応した防除間隔・防除薬剤を選択すること。
- 灰星病の耐性菌出現防止対策として、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行うこと。

※注釈

●交信攪乱剤利用によるコスカシバの発生密度低減

シナンセルア剤を成虫発生期に使用

交信攪乱効果を得るには広域での使用が原則であるが、使用本数を増やせば20a程度の小面積でも効果が期待できる。3 ha以上の広域施用なら10a当たり50本の製剤を1.5m～2mの高さの枝に施用する。小面積の場合は施用本数を150本まで増やす。施用区域の周縁部や傾斜地の上部には本数を増やし、中央部では減らすなどメリハリの利いた使用をする。